

することもある。従つて、冬期におけるニュージーランド近海は、低気圧の発達移動途上にあり、時折大シケに遭遇することがある。しかし、低気圧の通過後オーストラリア方面からの移動性高気圧におゝわらずため、比較的嵐の日が続く。そして、低気圧の通過は1週間～10日の周期性がみられ、通過後4～5日間嵐が続き、2～3日シケとなる傾向がある。

なお、当該域における気圧配置は、概して日本周辺の秋から冬に至るそれに良く類似している。

#### 引用文献

- 1) 小山武夫、桜井五郎、隅川芳雄(1968): 船尾トロールの投揚網時におけるワープ張力の測定結果、日本水産学会誌、Vol. 34, No. 10

### 3. ニュージーランド方面開洋丸調査結果(魚族資源関係)

池田郁夫(遠洋水産研究所)

#### (要約)

昭和48年5～9月にニュージーランド南島東方のカンタベリー湾、チャタムアイズを中心としてトロール漁場および資源の調査をおこなつた水産庁開洋丸の調査結果のうち資源関係の事項について報告した。

まづ得られた魚類標本約80種についてカラースライドで説明し、このうち量的にも多かつた主要魚種についてその分布状況を述べた、また水深別に魚群量を比較すると200mまでの大陸棚上では2トン程度、200～300mで3.8トン、300～400mで1.5トン、400～500mで2.1トンであるが500m以深では漸次減少し800m位では大陸棚上のほぼ60%となる。

つぎに主要魚種 Barracouta, Tarakihi, Sea perch, Horse mackerel, Groper, Warehou および Hoki の成熟状況、胃内容物等についてふれ、年齢査定の結果から得られた成長曲線、年齢組成から得た死亡係数により最適な漁獲開始年令の試算をおこなつた。

また面積当りの魚群量と、この水域の面積とから資源の現在量はカンタベリー湾、チャタムアイズを合わせて数十万トンに達すると推定した。

なお、詳細については、追つて「開洋丸調査報告書」として発表される。